

青少年環境教育交流（SSP）宣言

変動する世界への適応：コミュニケーション、教育、行動の向上

この宣言文はロシア、サンクトペテルブルクで開催された「エメックス 11 – シーコースト 26 ジョイント会議」に参加した日本、ロシア、米国の 13 名の学生によって作成された。主催者からの暖かい歓迎、全体会議の素晴らしい発表、セッションの議長と実行委員会の方々のご尽力、第 6 回 SSP に参加した学生と教育者による実りある交流を持てた事に、私たちは心から感謝の意を表したい。

このエメックス 11 は、力強い国際協力を維持していること、20 年以上にわたって生み出された様々な知見の上に積み上げられたこと、さらに SSP セッションが引き続き開催されたことにおいて大きな成功をおさめることができたといえる。

しかしながら、次の会議をさらなる成功に導くためにはいくつか改善すべき点があることも申し上げたい。それは、この SSP セッションを完全に全体会議に統合していただくことである。SSP を分離しておくことが専門家と学生の間本来あるべきアイデアの交流の手本になるとは思えない。このような状況では最も高いレベルにおける学習にはいたらない。

また、会議に参加する学生数と参加国の数を増やしていただきたい。

会議における学生の声が少ないと思う。異なるバックグラウンドを持つ学生が多く参加すれば、より豊かで実りあるアイデアの交換ができるはずである。そうすれば、より具体的な質問が投げかけられ、より良い研究とより効果的な解決策へとつながる。

学生と専門家間の制約されない交流が許されれば、お互いに学び合うことが可能になる。私たちは学生としてユニークな視点を提供することができるので世代間コミュニケーションはより高い価値のあるべきものになる。私たちは地球を受け継いでいく者として、将来に

ついて意見を言う必要がある。皆様とこれまで会議に貢献してくださった方々のおかげで、私たちの教育は学際的なものになっている。このことで私たちは、問題を様々な方向から分析し、視点を広げ、よりインパクトをもたらすことができるのである。

SSP セッションに於いて、一般大衆に科学的知見が明確に伝えられていないこと、それ故に、理解を得られなかったり、効果的な行動が取られないことがわかった。

サイエンスは、ごく普通の人達にも手の届くものでなければならず、そのためには、明確

でわかりやすい言葉でもってメッセージを伝えるべきだ。

メッセージは、共感の持てる形で表されるべきであり、そうすることによって、科学的な知見と一般の人の持つ理解とのギャップが埋められるだろう。知識の伝達方法をさらに改良することも教育制度の中に取り込む必要がある。

もし、あらゆる場面で環境教育が欠如しているとなると、一般市民が環境問題に取り組むのに遅くなったり、あるいは全く市民が存在しないことになる。行動を起こすためには、まず我々の環境教育を根本から変革しなければならない。これを実現するためには、実践的な学習や、あるいは、現在、喫緊の環境課題である「気候変動」について、課題解決型のカリキュラムを取り込むことなどが考えられる。このようにして一般の人々を巻き込むことで、生涯学習をする人達のネットワークが構築され、ひいては科学的な知見と一般大衆の理解との格差を少なくすることができるだろう。一旦知識を身に着けた人々は、自らの理解したことを政治的な領域にまで踏み込んで適用し、環境の重要性を唱え、政府に行動を求めるであろう。

個々人のレベルでも、行動を起こすことは重要であるが、コミュニティレベルで協働することは不可欠である。変動する世界に適応していくためには、ローカルレベルのみならず、地域、また更にはグローバルなコミュニティでの知識の共有が必要である。問題の重要性に応じた解決策を見つけるためには、協働しなければならない。

世界全体の問題に対する解決策を作り出すための課題や進捗状況について学ぶ機会を与えていただいたことに感謝する。さらに、文化、言語、規範などの差異を克服すれば、より強固なソリューションを生み出すことができ、将来に向けてよりよい備えができるだろう。

何事も一人では変えられない。しかし、もし、何百万人もの人が、一人一人はささやかでも、環境を守るために変化を起こせば、地球の状態は変わるだろう。私たちのような若い世代は、地球を共有するすべての生き物のために、私たちの環境を保全する意思と努力を、手と手を携えて受け継いでいかなければならない。何ができるのか、一緒に考えようではありませんか。